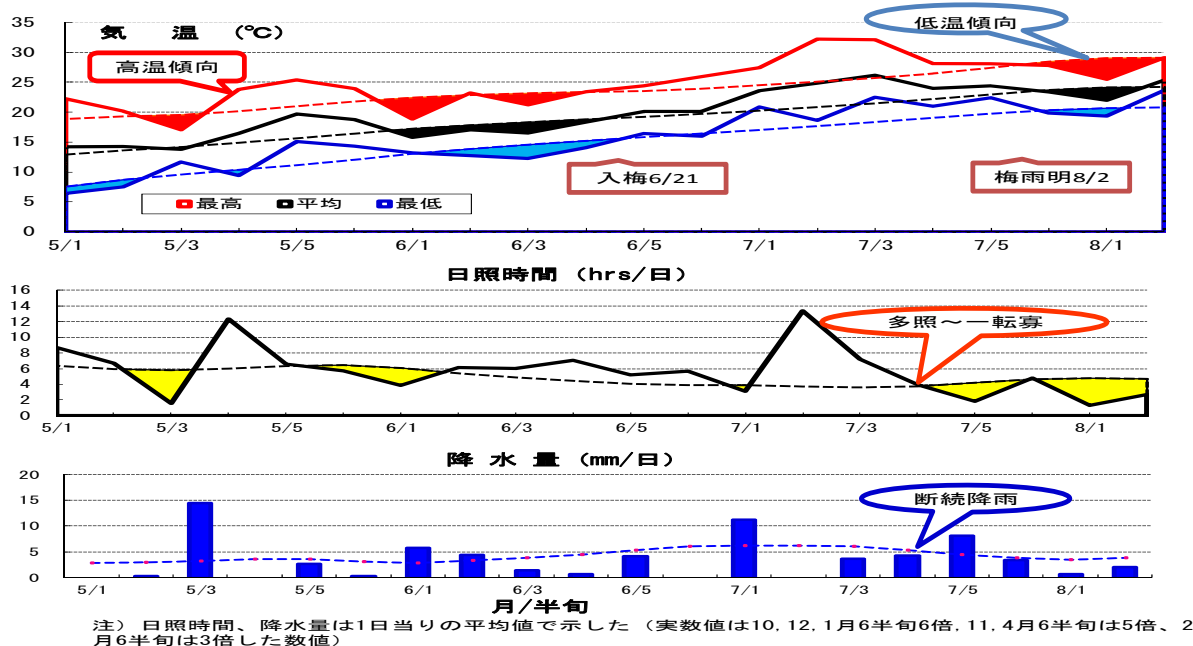


～～7月の高温で生育は旺盛で茎長は長め、開花期の病害虫防除の徹底を～～

1 気象経過

【古川アメダス】



- ・7月は全期間を通して平年に比較して、かなり高温で日照時間も多照傾向であった。
- ・梅雨明けは平年より8日遅い8月2日となり、その後、低温傾向に推移している。
- ・8月に入り、日照時間は、寡照となっており、台風5号等の影響で降雨も続いている。

2 生育状況

【古川農業試験場内】

- ・主茎長は平年より8～10cm長く、主茎節数及び総節数は並み～多く、分枝数は並みであった。
- ・7月22～23日の降雨により、ミヤギシロメは倒伏し、蔓化し始めている。
- ・開花期は、タンレイが3日、あやこがね及びタチナガハが1日、ミヤギシロメが2日早かった。

7月25日付け生育調査結果 (標播7月24日調査, 晩播7月25日調査)

播種期	品種名		開花期 (月/日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	総節数 (節/本)
標播	タンレイ	本年値	7/23	75.4	15.7	3.0	32.7
		前年差	2日早	+12.3	+1.6	-0.7	+1.8
		平年差	3日早	+10.3	+1.5	+0.1	+2.8
(5/24)	あやこがね	本年値	7/26	72.1	15.5	2.3	30.7
		前年差	同日	+6.0	+1.0	-0.8	-0.0
		平年差	1日早	+8.5	+1.2	-0.5	+1.2
	タチナガハ	本年値	7/26	70.3	15.4	2.6	31.7
		前年差	同日	+8.8	+1.9	-1.0	+2.7
		平年差	1日早	+8.2	+1.2	-0.0	+4.3
	ミヤギシロメ	本年値	7/31	77.8	14.3	2.5	29.3
		前年差	1日早	+5.7	+0.1	-0.8	+0.5
		平年差	2日早	+8.5	+0.1	-0.1	+0.9

3 今後の管理

(1) 病害虫防除

- ・紫斑病と害虫防除は、開花期後 20～40 日に 1～2 回薬剤を散布する。
- ・ジャガイモヒゲナガアブラムシは、8 月下旬～9 月上旬に密度がピークに達する。
- ・吸実性カメムシは、着莢期と子実肥大中期に 2 回薬剤を散布する。
- ・マメシンクイガは、連作すると発生が多くなり、発生は 8 月第 6 半旬～9 月第 1 半旬である。防除適期は成虫発生盛期からその 10 日後までである。



病害虫防除所 発生予察情報 8 号

病害虫名	発生量
紫斑病	やや少ない
ジャガイモナガヒゲアブラムシ	少ない
吸実性カメムシ	やや多い
マメシンクイガ	平年並み

(2) 圃場の排水と湿害対策

- ・秋の収穫に大豆作の約 97%が水田作であり、8 月になって明渠が残っていること。
- ・長雨が続く、排水不良地は大豆の葉が黄化し湿害を受ける。



【参考】

今後 1ヶ月の気象予報

1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
【気 温】	東北太平洋側	10	40 50
【降 水 量】	東北地方	30	40 30
【日照時間】	東北太平洋側	40	40 20
1 週目	東北太平洋側	20	40 40
2 週目	東北太平洋側	20	40 40
3～4 週目	東北地方	20	30 50